



大学入学共通テストは

思考力を測れているか

倉元 直樹

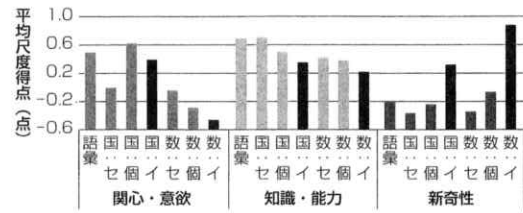


図1 印象評価(SD法項目の因子分析に基づく尺度得点の比較)
注) セ: センター試験, 個: 個別学力試験, イ: イメージ例

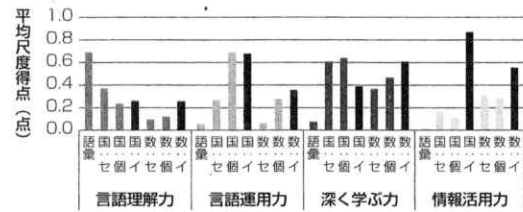


図2 必要な資質・能力(資質・能力項目の因子分析に基づく尺度得点の比較)
注) セ: センター試験, 個: 個別学力試験, イ: イメージ例

に乗せて展開される大問形式の問題である。国立大学の個別学力検査で出題されている数学の内容をはるかに凌駕するような本格的な記述式問題であった。しかし、毎年、三十万人以上が受験する共通テストの数学でこれを出題し、正確かつ短時間で採点することが不可能であることは、火を見るよりも明らかであった。結局、二〇一七年十一月に実施された最初の共通テスト試行調査の記述式問題は、スーパーマン問題とは似ても似つかぬ単純な設問となっていた。センター試験で測定できない思考力を真剣に追求するのであれば、本来、ここで「そもそも数学における『思考力』とは何か」といった議論が喧々囂々とわき起こるべきだったはずだが、そ

始まりは突然であった。二〇一四年十二月に公表されたいわゆる高大接続答申に「大学入学者選抜においては、現行の大学入試センター試験を廃止し、大学で学ぶための力のうち、特に『思考力・判断力・表現力(傍点筆者)』を中心に評価する新テスト『大学入学者希望者学力評価テスト(仮称)』を導入し、各大学の活用を推進する。」と宣言されたことが

私がこの便利なツールを知ったタイミングは、依頼を受けた時期と重なる。いわゆる『思考力』を取り巻く環境は、当時から想像すらできなかった新たな状況に至った。困った話だが、逆手に取れば、苦勞して本稿を執筆しなくともすむかもしれない。そこで淡い期待を抱いて Chat GPT に本稿の下請けを依頼してみた。一秒経つか経たないかのうちに回答の表示が始まった。パソコン画面には、かつて世話になったドットプリンタを髣髴とさせる感触で文字が流れていく。二度ほど中断があったが、「続きを教えてください。」と入力すると引き続き文字が現れ、二分五〇秒ほどで二千文字弱の回答が返ってきた。多少短いが立派な文章である。しかし、残念ながら、内容は私が構想していたものとはかけ離れていた。Chat GPT の『作品』がどのような内容であったかは最後に触れるとして、まずは、大学入試センター試験(以下、「センター試験」と略記)が廃止となって大学入学共通テスト(以下、「共通テスト」と略記)が導入された経緯を思い起こしてみよう。

きつかけだ。そこから遡ること六年前の学士課程答申がセンター試験の役割を高く評価していただけに、突然の方針転換には戸惑いを禁じ得なかった。最終的に名称が「大学入学共通テスト」と落ち着いたのは二〇一七年七月だが、この間の経緯を考えると共通テストで測る『思考力』とは、従前のセンター試験では測定できなかった能力となる。その実相に迫るには、国語と数学で検討されていた共通テストへの記述式問題導入構想が鍵を握る。

高大接続答申は様々なドラスティックな改革を提言したが、それらはことごとく現実離れしたものだだった。一見新しく見えてくる民間試験を活用した英語四技能の測定も含め、大学入試改革の歴史をひも解けば、過去に提言されたが結局実現に至らなかった内容ばかりであったことが分かる。答申を具体的な施策に落とし込む役割を任せられた高大接続システム改革会議は、正直、厳しい立場であっただろう。八方ふさがりの中から記述式問題の共通テストへの導入に焦点を絞って実現に邁進することとなった。

高大接続答申公表の一年後、二〇一五年十二月に行われた第九回会議において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とそれらを評価する方法のイメージ例(たたき台)として国語、数学、英語の試作問題が示された。特に、数学のイメージ例はその後の展開を考えると実に興味深い。実物を知らないと言が見えにくいので、関心のある読者は文部科学省のウェブサイトを検索してみるとよい。いわゆる「スーパーマン問題」の登場である。概略を述べると「月が地球に最も近づくタイミングと満月のタイミングが重なる」と月が通常より大きく見える(スーパーマン)に関する記事を読んだ主人公が「月が地球から最も離れたときに見える満月と比べてどれほど大きく見えるのかを調べる」とのストーリー

うした話は寡聞にして存じ上げない。その後、試行調査で示されたシンプルな記述式問題も実施不可能ということで撤回に至ったことは周知の事実である。

この時期、文部科学省の委託を受け、筆者らは北海道大学を代表大学とする共同研究に加わっていた。個別学力検査「国語」において思考力を測る新たな問題の開発がテーマだったので、まずは高大接続改革が求める思考力とは何かを探るべくモニター調査を実施した。単純な語彙テスト、旧来のセンター試験、個別試験、そしてイメージ例の問題を高校生に実際に解いてもらい、各設問についてどのように感じたか、何を測っているかと思うかを問う調査研究である。国語がターゲットだったが比較のためにスーパーマン問題を含む数学も用意した。結果は図1、図2に示す通りである。イメージ例の問題は「新奇性」に富み、「情報処理能力」を測る問題と認知された。それだけの話である。一連の研究の最初の調査だがこの時点で決着はついていた。

生成系 AI の登場は思考力の定義を変えるかもしれない。冒頭で触れた Chat GPT の回答は共通テストに記述式問題が含まれることを前提としたものだった。そこで、問い方を変えてセンター試験の思考力との違いについて回答を求めたところ、センター試験は記述式であり、共通テストは選択式なので、共通テストはセンター試験とは異なる固有の思考力を測っている、との回答が返ってきた。これからの思考力とは、もつともらしい「嘘」を見抜くために自らの力で確かな事実を身に付けていることが前提の能力として定義されることになるのかもしれない。それが共通テストで測られる能力かどうかは知らないが。

注: 本稿は J S P S 科研費 J21H04A09 の研究成果の一部である。
〜からもなおき 東北大学教授